

黒田記念館

近隣
散策



写真1 黒田記念館エントランス（発行者撮影）

黒田記念館は、上野公園にある東京国立博物館所管の国の登録有形文化財である。博物館の敷地からは道路を隔てた西側にひっそりと佇む西洋風の近代建築である。

1928（昭和3）年、日本近代絵画の巨匠で「近代洋画の父」と言われる黒田清輝^{せいき}の遺言により、帝国美術院附属美術研究所として建てられた。設計は大正時代から昭和時代初期に活躍し、旧歌舞伎座や明治生命館などを手がけた岡田信一郎によるもので、シンメトリーな建築で、外装のタイルはスクラッチタイルで自然に溶け込む色合いで控え目な印象である。アーチ型の入口上部にはアールヌーヴォー風の装飾が施されており、「黒田記念館」の文字があらわれている（写真1）。吹き抜けの階段は、手すりに入口上部と同様の装飾が施され、白漆喰の壁にエメラルドグリーンの開口部からは柔らかな雰囲気が伺える（写真2）。

館内展示室は、黒田記念室と特別室の2つで構成されている。黒田記念室では、遺族の方々から寄贈された遺作の油彩画、素描等を展示し、黒田清輝の画業の初期から晩年までを一覧出来る。また特別室では、年3回の新年、春、秋に各2週間に渡り、代表作である「湖畔」（1897年）など4作品が公開される。

観覧料は無料で、建築界の巨匠の建築と日本近代絵画の巨匠の絵画、両雄のアートを堪能出来るスポットである。



写真2 吹き抜けの階段（発行者撮影）